

**現存船インベントリ作成が100隻に達しました。**

インベントリ（船舶の有害物質一覧表）はシップリサイクル条約に規定されており、国際トン数500トン以上の商用船（解撤を終えるまで生涯を通じて国内を航行する内航船は除く。）には作成が必要です。

財団法人 日本船舶技術研究協会は、2008年度から現存船インベントリ作成業務を実施して来ましたが、このたび、日正汽船（株）様から汽船「HIGH ENERGY」についての作成申込があり、これにより弊協会の当該業務開始以来の作成累計（作成中を含む。）が100隻に達しました。

100隻の内訳は、外航・内航の別では、外航船が78隻、内航船が22隻となっています。また、年度別の作成隻数は、2008年度に10隻、09年度に20隻、10年度に29隻（うち9隻は内航船）、そして11年度は41隻（1月31日現在。うち13隻は内航船）と、着実に増加をしています。

このうち外航船78隻についてみると、建造国別では日本が76隻、海外が2隻であり、国内造船所での建造船がほとんどを占めています。建造年月で分けると、1995年3月以前が24隻（31%）、同年4月以降2002年6月以前が29隻（37%）、その後の2002年7月以降が25隻（32%）と、高齢船から新鋭船まで広く分布しています。次に船の用途別にみると、タンカーが最も多く32隻（41%）、次いで貨物船・バルカーが19隻（24%）、ほかに自動車運搬船10隻（13%）、調査船6隻（8%）、LNG/LPG船5隻（6%）、客船/フェリー3隻（4%）、コンテナ船3隻（4%）と、多様な船種構成となっています。また、作成における実船調査場所（ドック地）の別でみると、日本が34隻（44%）、シンガポール19隻（24%）、中国16隻（21%）、中東4隻（5%）、その他5隻（6%）であり、海外での実船調査が半数以上を占めています。なお登録船級については、いわゆる JG 船2隻の他は全て NK 船です。

（注）建造年月：1995年4月にアスベストの製造・輸入等が国内で禁止された。  
2002年7月に船舶でのアスベスト使用が世界的に原則禁止された。

他方、内航船22隻についてみると、全て国内建造船であり、ドック地もすべて国内です。建造年月で分けると、1995年3月以前が14隻（64%）、同年4月以降2002年6月以前が6隻（27%）、その後の7月以降が2隻（9%）と、高齢船が大半となっています。次に船の用途別にみると、タンカーが11隻（50%）と半数を占め、ほかに貨物船が6隻（27%）、LNG/LPG船3隻（14%）、自動車運搬船2隻（9%）、となっています。なお登録船級については、いわゆる JG 船1隻以外は全て NK 船です。

財団法人 日本船舶技術研究協会は、ISO9001の取得による品質管理の徹底、作成専門家の養成など、現存船インベントリ作成体制の充実に努めています。

近い将来、作成要請が一時に集中して生じ、業務が輻輳することも予想されますので、船主等の皆さまには引き続き早期で計画的な作成をお願いしています。

お問い合わせ先

（財）日本船舶技術研究協会 吉川 03-5575-6429 Email:yoshikawa@jstra.jp